

部首って、なに？

木 き

からたくさんのかんじができた。



足 たし

まえにすすむ
足をふくかた

ハ → 化 → 迄 → 之

之 し

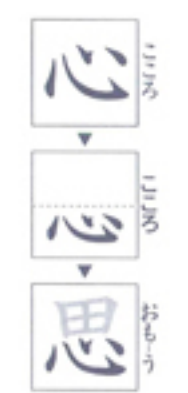
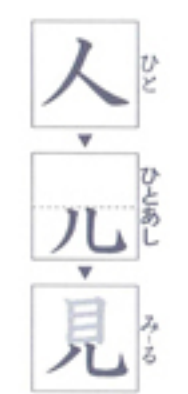
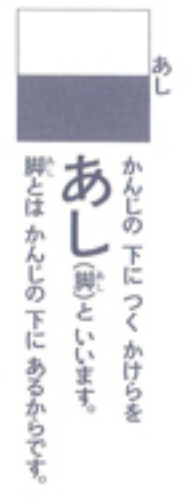
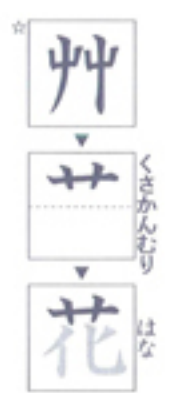
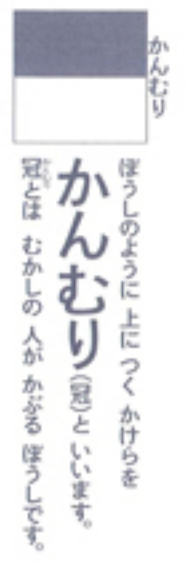
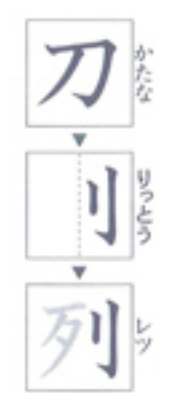
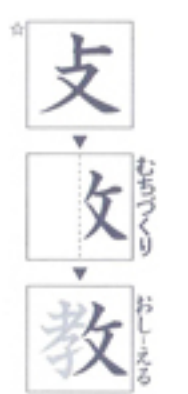
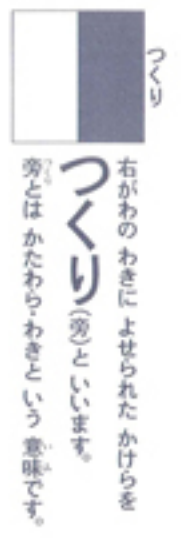
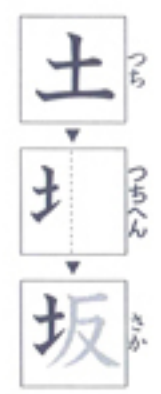
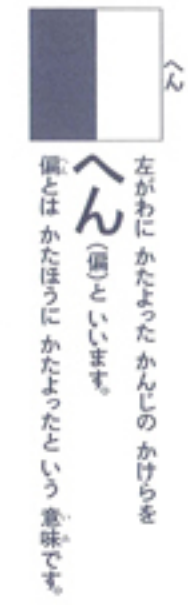
からたくさんのかんじができた。



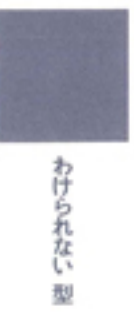
ものごとをえのようにかきあらわしたかんじやかんじのかけらがもとなって、たくさんのかんじができました。木や之のようにたくさんのかんじをつくる力をもったかんじやかんじのかけらが部首となりました。



あわせかんじがでるときこの部首のくみあわせりかたは、右十左(左に)かたよる、上十下(上か)下に(下)かたよるという型がおおいのです。ほとんどのあわせかんじがこの型でできています。そのほかに、内十外(外が内をかこむ)という型もありましたね。



このシリーズ1でならった百のかんじ(かたどり文字)はあわせかんじではありません。だから、百のかんじは分けられません。■型のもじだということ。そして、百のかんじはほとんどが部首になるかんじです。



手からできた部首

【手のかたちうつしてできた手とてへん】



て
手
(●) 挙
てへん
投打
(●) 拾持

【又とみむけと、右手のかたち】



又
みきてのまた
友反取
(●) 収度

【右の手で竹をしっかりとささえもつ】



支
ささえる
支
(●) 枝
(●) 技
(●) 鼓



手
寸
すん
寸寺
(●) 対導専

【つめのさきでつまむ意味もつめかんむり】



手
受
つめかんむり
受(又)
(●) 菜授採

【かかえておもうでのかたちがわたくしのむ】

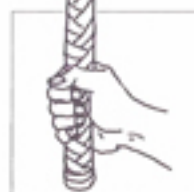


又
わたくしのむ
私(又) 去
(●) 参公台



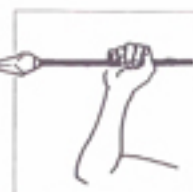
又
にじゅうあし
升
(●) 算具兵

【むちもって数えたり、教えたりするむちとてへん】



又
むち
教
(●) 数整放

【ほ(刀)もって手でするむちのるまたたよ】



又
るまた
殺
(●) 段役投

シリーズ3の新出文字



投
もとまは
なげやりのこと。
のち、ただなげる



支
右の手で、
竹をしっかりと
ささえもつ



去
いれもののふたを
とりさることから
(●) 去さるの
意味になる。
大は人をあらわす



隶
れい
隶
(●) 隸逮

【どうぶつのはをうかがむれいへん】



本
しん
律
書(日) 筆(竹)
(●) 健建律



弁
べん
弁
かんむりと
りょうての
かたちでできた弁



教
きョウ
教
むちもって、
子どもにちえを
教えてる



殺
ころす
殺
たたりをおこす
けものを
殺(ほ)いで殺した

道具から できた部首

衣ふくの道具



【よりあわせ、まゆからつへる糸といへん】



糸
いと
(紙・組・絵)



幺
いとがしら
(幼・後・幾・幽)



巾
はば
(布・市・席・帯・帳)



衣
いづも
(表・裏・製・裁・複・補・被・裸)



彡
さんづり
(形・修・彩・彫)



玄
ゲン
(玄・率・畜)

【ねじってそめたくり糸が玄】

【うつくしいかたちもようさんづり】

【たれさがる布のきれはしはばへんだ】

【着物きたえりのかたちがごろもへん】

生活の道具



【あしつきのお皿のかたちのさらあしだ】



皿
さらあし
(益・盟・盛)



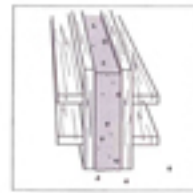
酉
さけ
(酒配・酸・尊・酔)

【酒つへるひののかたちのさけいへん】



斗
と
(料・科・斜)

【米や酒、はかるひしゃへの斗ます】



片
かたへん
(版・片)

【土がへつへりにつかう板のかたへん】

【意味はなく、かたちもかわつたしょうへんだ】



工
しょうへん
(状・将・壮)

【のみで穴あけ、さいくするのしょうへんだ】



工
こうへん
(左・工・差・巧)



舟
ふね
(船・航・舶)

【まわりじゅう四角い板でかこむ舟】